

教材研究ノート№3-A-5

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・一万までの数について，十進法のしくみや位取り，命数法･記数法・数の系列，順序，大小を理解している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・数の相対的な大きさ…10，100等を単位として，そのいくつ分かで数の大きさをとらえることを学習している。

○共同追究でのゆさぶり

・10000を越える数で，数の途中に空位のある数を表す経験は初めて。

○ゆさぶりに対応する経験

・1000までの数でも空位の学習をしている。

≪学習問題≫

野球のしあいで売れた入場けんは何まい

ですか。（紙の束の模型を提示して）

≪学習問題≫

主眼

授業計画･実施記録

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②見通し:数が多くなってかぞえることができない。

→千，百，十の束がいくつあるかを数えれば速く数えられそう。

②学習課題:万，千，百，十，バラがいくつできるか考えて，入場けんの枚数を数えよう。

③個人追究:それぞれの位がいくつできるか，紙に印をつけながら，けんの枚数を分けて数える。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「それぞれの位はいくつできたでしょう？」

→「一万が2つ，千が4つ，百が5つ，十が6つ，一が3つ。」

位取り板に数字をかき込み，各位の数を確認する。

位取り板にかいた数を基に，読み方，かき方を確認する。

④共同追究後半（思考を深める）

「千の位がない時は，どのようにかいたり読んだりすればよいのかな？」

→「0とかいて，読まないようにすればよい。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・今までの読み方（書き方）に万をつければよい。

・10こ集まれば次の位になる。

・位がないときは，0とかいて読まないようにすればよい。

⑥定着･活用問題

・四万二千五百四十二を，万の位と千の位と百の位と十の位と一の位に分けてカードを並べてみよう。

≪定着・活用問題≫

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・例えば，お年玉の金額や商品の価格など，日常生活の中で1万を越える数に触れる機会が多くあっても，大きな数の仕組みを理解することは容易ではないし，個人差も大きいと考えられる。

・今までの学習に戻り，読み方，かき方，大小比較，数の相対的な見方などを復習しながら，類推を働かせて，1万を越える数の仕組みの理解や十進位取り記数法のよさの実感に迫りたい。

【板書計画】